

第七劇場

三人姉妹

ツアー公演概要書

2013年、日本人俳優とフランス人俳優との国際協働作品として
新国立劇場で上演された第七劇場「三人姉妹」を
10年ぶりに日本人キャストでリクリエーションし、
三重・愛知にてツアー上演。

■ お問い合わせ

【三重公演】

三重県文化会館 [指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団]
514-0061 三重県津市一身田上津部田1234
tel: 059-233-1100 (事業課・担当：田島)

【知立公演】

パティオ池鯉鮒 (知立市文化会館) ・一般財団法人ちりゅう芸術創造協会
愛知県知立市上重原町間瀬口116
tel: 0566-83-8100 (担当：福田)

■ 三人姉妹 特設サイト <https://dainana-trois.tumblr.com/>

■ イントロダクション

——私たちの生活はまだおしまいじゃない。生きていこう。もう少ししたら、私たちが何のために生きているのか、何のために苦しんでいるのか、わかるような気がする。

(「三人姉妹」第四幕より)

母を失い、モスクワを離れ、次に上級軍人の父をも失い、郷里であり都会であるモスクワへの思いを募らせる一家。田舎暮らしの中で、格式高い教育を受けて育てられた価値観、思い通りにいかない自分の人生、田舎では無益と感じてしまう知性や若さを持て余す、三人の姉妹とひとりの兄。

教育者として、家族の長として自分を磨耗させながら家族を守ろうとする長女。知性と愛への理想を結婚に砕かれた次女。労働と恋への憧れが崩れ去る三女。何者にもなれない自分への苛立ちを募らせる長男。

今でも世界中で上演され続けるチャーホフの名作戯曲。生活の退屈さや人生の横暴を受け入れて前に進む、緩やかでも確かな覚悟を描いた物語。

三重県文化会館の初演後、パティオ池鯉鮒でのバリアフリー公演を実施する、中部圏内でのツアー公演。

第七劇場の「三人姉妹」は、2013年、私がポーラ美術振興財団の助成を受けてフランス・パリに滞在中にフランス人俳優たちとクリエイションをはじめ、帰国後すぐに日本人俳優数人が合流し、日中韓国際演劇祭 [BeSeTo演劇祭] の関連公演として新国立劇場・小劇場 THE PITで初演されました。

ヨーロッパから見た日本やアジアの姿形や、ヨーロッパの中での日本やアジアの姿形を、よくよく観察しながら生まれた作品でした。

第一幕に「何世紀後かの人間の生活はすばらしいものになっている」という台詞があります。これはロマンチストの人物が理想を語るシーンの言葉ではありませんが、チャーホフが「三人姉妹」を書いて1世紀が経った今、人間の生活はすばらしいものになっているのだろうか、もしくはこれからそうなると信じられるのだろうか、という疑問から、演出をイメージし、原作にはない「画家」という役が「三人姉妹」の絵を描いている設定が基盤になっています。

この100年の間に人間の生活は飛躍的に利便が高まりましたが、苦しんだり、悲しむひとの数が減り、生活はすばらしいものになったのでしょうか。私にはそうは思えません。私たちは、私たちの姿を客観的に見直し、欲求にブレーキをかける必要があるように思います。それとも、それは不可能なことなのでしょうか。

今回もオーディションを実施し、テクニカルスタッフも含めると、三重・愛知・東京・京都・兵庫・富山・長野・広島・愛媛からのメンバーでクリエイションします。多くの方にご来場いただければと切に願っています。

鳴海康平

演出家、第七劇場 代表

Théâtre de Belleville 芸術監督

■ 初演時の演出ノートより

ずいぶん前、国語の授業で書いた何かの感想文で、多くのひとが若い頃に必ずと
いっていいほどこだわってしまうことについて、それは「いくつかの制限から解放
されたときに錯覚する一時的な経験だ」というようなことを書いて、先生とケン
カになりました。今思えば、恥ずかしいのひと言に尽きますし、それはケンカと
いうような立派なものではなく、青臭い私を淡々と諭そうとした先生に納得がい
かない私の単なる口答えに過ぎなかったように思います。それから20年近くが経
ち、思いがけずまた同じことについて考えました。今度はチェーホフとともに。

さまざまな思考を磨き、大勢の血を流し、多くの涙が流れ、そして乾いていく中
で、かつての私たちがそれを手に入れたということは、よく知られています。しか
し、その上に立つ私たちは、はたしてかつての私たちが描いたような姿をしている
のでしょうか。

20年という歳月で私に何か変化があったのか、2年または100年という歳月で私
たちにどんな変化があったのか。

かつての私は差異を手に入れることによって自由という錯覚を経験すると書きま
した。しかし今、どうやら同じようには考えることができなくなっています。自由
そのものが差異を生み出し、すでに私たちは自由から疎外されているように実感
しています。

日本と韓国や中国で使われている言葉が異なるのと同じくらい、アジアとヨー
ロッパの自由をめぐる言葉も異なるように感じます。自由だけではありません。愛
情についても、知性についても、労働についても、そして現在や未来や過去につい
ても。いえ、もっと正確に言えば言葉そのものの人生における機能も異なる点
が多いとも感じます。

私たちは言葉を使い、何かについて、何かをめぐるって思いを伝え合います。そして
私たちに許された自由の範囲内で、ひどくたくさんある選択肢の中からひとつを
選びながら、自分自身を、または私たち自身をより良く描けるように期待します。

100年後の私たちが、今の私たちを描くとき、どのような姿をしているのでしょうか。

鳴海康平（演出家、第七劇場 代表）



「三人姉妹」（初演・2013・新国立劇場 小劇場）

■ 作品情報

三人姉妹

原作：A. チューホフ
構成・演出・美術：鳴海康平

出演：

木母千尋、小菅紘史、菊原真結 /
諏訪七海、桑折 現、中村彩乃 /
田辺泰信、中西聖羅、藤島えり子
宮地 綾、山形龍平

舞台監督：北村侑也（三重）、北方こだち（知立）
照明：島田雄峰（LST）、佐伯香奈（LST）
音響：平岡希樹（現場サイド）
音楽：川崎正貴
衣裳：小野花弥
フライヤーレイアウト：橋本デザイン室
写真：松原豊
アダプテーション：鳴海康平

上演時間：100分（予定）

【三重公演】

主催：三重県文化会館
[指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団]
共催：レディオキューブFM三重
助成：文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業（地域の中核劇場・音楽堂等活性化）、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人岡田文化財団

【知立公演】

主催：一般財団法人ちりゅう芸術創造協会、（福）知立市社会福祉協議会
協賛：知立市・知立市教育委員会
協力：知立障がいフォーラム「リングC」、ボランティアあいタッチ
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：名古屋芸術大学
製作：合同会社 第七劇場

三重公演料金：

一般前売 2,500円（当日 3,000円）
22歳以下 1,000円（前売・当日とも）
※整理番号付き・日時指定・全席自由
※未就学児入場不可 ※22歳以下、当日確認要

三重公演チケット取り扱い：（8月5日発売開始）

- 三重県文化会館
 - ・チケットカウンター（窓口・電話）
Tel：059-233-1122（10:00～17:00／月曜
または月祝翌平日休館）
 - ・WEBチケットサービス「エムズネット」
<https://p-ticket.jp/center-mie/>
- 第七劇場（予約のみ）
<https://dainana-trois.tumblr.com/>

知立公演料金：

一般前売 2,000円
25歳以下 500円（前売・当日とも）
障がい者割引（障がい者手帳をお持ちの方）
知立市内在住在勤の方 500円
市外在住の方 1,000円

※日時指定・全指定席
※3歳未満ひざ上鑑賞無料 ※25歳以下、当日確認要

※入場者の年齢制限はありませんが、会場が暗くなったり、大きな音が鳴る公演ですので、必要に応じて親子室席やスピーカーから離れた席をご利用ください。
※25歳以下チケットでご入場の際は、年齢の確認できる証明書のご提示をお願いいたします。
※パティオシーとのお取り扱いはパティオ池鯉鮒のみ。
※障がい者手帳をお持ちの方のチケットのお取り扱いはい各販売店の窓口のみ。
※車椅子スペース・親子室席のお取り扱いにはパティオ池鯉鮒アートセンターのみ。（席に限りがあります）

知立公演チケット取り扱い：

- 会員 8月19日、一般 8月26日 発売開始
- パティオ池鯉鮒
 - ・アートセンター Tel：0566-83-8102
 - ・WEB販売 <https://patio-chiryu.com/>
 - ・（福）知立市社会福祉協議会
 - ・メープルけやき

■ 上演情報

三重公演

会場：三重県文化会館 小ホール
(三重県津市一身田上津部田1234)

開演日時：

2023年10月7日(土) 14:00 / 18:00
10月8日(日) 14:00

※各回終演後にトークセッションを実施予定

※受付開始は開演の45分前、開場は30分前

※整理番号順のご入場

※8日(日)公演は託児サービスを実施。

先着順・有料・公演2週間前までに申込

(三重県文化会館 TEL 059-233-1122)

知立公演

パティオバリアフリー事業

パティオ小劇場演劇2023

会場：パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

かきつばたホール

(愛知県知立市上重原町間瀬口116)

開演日時：

2023年10月22日(日) 14:00

※各回終演後にトークセッションを実施予定

※開場は開演の30分前

アントン・チェーホフ (1860 - 1904)



ロシアの作家、医師。小説においても戯曲においても革新的なスタイルで作品を残す。それまでの大きな物語や主人公のような存在に重きをおかず、人間に対するすぐれた描写で、リアリズムにおける近代劇の基礎をつくったモスクワ芸術座の創成期に戯曲を書き下ろした。「かもめ」「ワーニャ伯父さん」「三人姉妹」「桜の園」は四大戯曲と呼ばれ、現在も世界中で上演され続けている。

「かもめ」「ワーニャ伯父さん」「三人姉妹」「桜の園」は四大戯曲と呼ばれ、現在も世界中で上演され続けている。

■ プロフィール

■ 鳴海康平 (なるみこうへい)



写真 ©松原豊

第七劇場、代表・演出家。

Théâtre de Belleville、芸術監督。1979年10月、北海道紋別市生まれ。三重県津市在住。早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。「風景」によるドラマを舞台作品として構成。国境を越えることができるプロダクションをポリシーに製作し、ストーリーや言語だけに頼らないドラマ性が海外で高く評価される。ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス・2012年)として1年間渡仏し活動。帰国後2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。AAF戯曲賞審査員(愛知県芸術劇場主催 2015～)。名古屋芸術大学芸術学部准教授(2021～)。

■ 第七劇場

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内25都市、海外5ヶ国11都市(フランス・ドイツ・ポーランド・韓国・台湾)で作品を上演。代表・鳴海がポーラ美術振興財団在外研修員(フランス・2012年)として1年間滞仏後、2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新劇場Théâtre de Bellevilleのレジデントカンパニーとなる。

■ 三人姉妹 特設サイト

<https://dainana-trois.tumblr.com/>



■ 作品へのお問い合わせ

合同会社 第七劇場

5142113 三重県津市美里町三郷2104

tel. 070-1613-7711

mail. info@dainanagekijo.org

web. <https://dainanagekijo.org>